

6月は環境月間 気候変動とどう向き合いますか

図▷記事について…広報統計課 ☎43-2248 ▷気候変動対策について…環境政策課 ☎43-9265

気候変動とは、気温や雨の降り方などが長期にわたって変化する現象のことです。猛暑や豪雨による被害が増えている今こそ普段の生活を振り返り、気候変動と私たちのこれからの暮らしについて考えてみませんか。

温室効果ガスが原因で進行する地球温暖化

私たちは、暮らしていく上で二酸化炭素をはじめとする多量の温室効果ガス^(※)を発生させています。地球温暖化は、この温室効果ガスが大気中に増えることにより、地球上の平均気温が上昇する環境問題です。

地球温暖化は現在も進行しており、平均気温は少しずつ上昇を続けています。

(※)熱を地球に閉じ込めて、気温を上げる働きがあるガスの総称。化石燃料(石油・石炭・天然ガスなど)が燃焼する際に発生する。

私たちの生活への影響

温室効果ガスがもたらす影響は、気温の上昇だけではありません。気温・海水温が高くなることにより海面が上昇したり、大気中の水蒸気量が増加したりすることで、気候変動が生じます。こうして地球の環境が変化した結果、私たちの生活にも次のような影響が出てまいります。



熱中症発症リスクの増大



強い台風などによる自然災害の増加



農作物の品質低下、生育不良

八戸市の現状

市民の皆さんと気候変動の危機感を共有するため、市では4年2月に「気候非常事態」を宣言し、新たに定めた地球温暖化対策実行計画を基に、「環境・社会・経済のバランスのとれたグリーン社会の実現」に取り組んでいます。

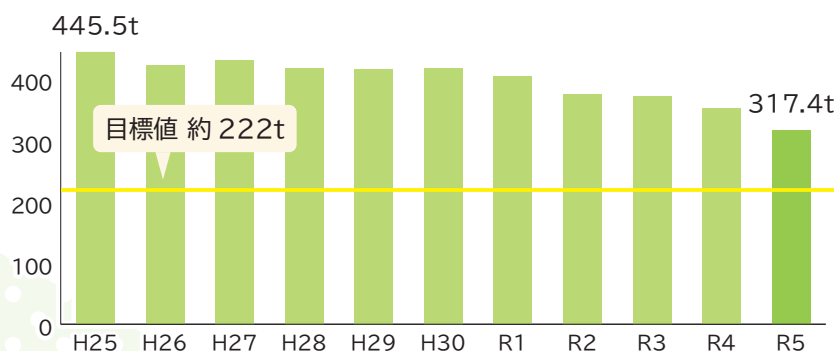
八戸市を人と自然が共生する持続可能な都市にするためには、一人一人が当事者意識を持ち、二酸化炭素の排出量抑制などの対策を取る必要があります。

八戸市の二酸化炭素の排出量

市では、12年度までに温室効果ガスの排出量を二酸化炭素換算で50%削減するという目標を掲げています(平成25年度比)。

5年度排出量

317.4t(約29%減)



八戸市の二酸化炭素排出量の推移

私たちにできること

気候変動対策には、「緩和」と「適応」という2つの柱があり、どちらも気候変動の影響から私たちの命や暮らしを守るための大切な取り組みです。できることから少しずつ実践しましょう。

緩和 気候変動の原因を減らす

温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動を抑制しましょう。

- ▷冷蔵庫に食品を詰め込みすぎない
- ▷建物の断熱性を高める
- ▷太陽光など再生可能エネルギーを活用する
- ▷ハイブリッド車などのエコカーを活用する
- ▷ごみを分別して処分する



適応 気候変動の影響に備える

気候変動の影響による被害を回避・軽減できるよう対策しましょう。

- ▷感染症予防のため、虫に刺されないよう注意する
- ▷湯水に備え、普段から節水に取り組む
- ▷大雨に備え、洪水や土砂災害のハザードマップで被災想定区域や避難経路を確認しておく
- ▷熱中症予防のため、こまめに水分補給をする、熱中症警戒アラートを確認するなどの対策を取る



気候変動に関する市の取り組み

市民を対象とした講座など

気候変動について関心を持ってもらうため、市民を対象とした学習会を実施しています。

環境学習会

環境との関わり方を知ってもらうため小・中学生を対象に開催している学習会で、地球温暖化についても取り上げています。

気候変動ゼミ

気候変動について気軽に学ぶことができます。8年度第1回は気象予報士を講師として招き、気候変動の知識を深めます。



再生可能エネルギー活用の推進

市内の住宅における太陽光発電設備や蓄電池の導入を促進するため、導入費用の一部を補助します。

金額 ▷太陽光発電設備 1kW当たり5万円(上限25万円)

▷蓄電池 対象経費の3分の1(上限35万円)

※購入条件によっては、県で実施する「共同購入事業」も併せて活用できる場合があります。

詳しくは市ホームページをご覧ください。



省エネ診断の費用補助

省エネ診断とは、専門家が事業所や工場のエネルギーの使用状況などを調査し、省エネ対策を提案するものです。

市内の中小企業を対象に、この診断の活用にかかる費用の一部を補助します。

※詳細が決まり次第、市ホームページでお知らせします。



はちのへ涼みどころ

暑さをしのぐため、市民の皆さんが涼み、休憩できる場所を開設しています。

対象となる施設にはポスターを掲示しますので、お気軽にご利用ください。

期間 7月～9月予定

場所 市の公共施設、郵便局など



未来をつくる「カーボンニュートラル人材」

7年12月に開催した環境学習会で講師を務めた、八戸工業大学第一高等学校の生徒(7年度時点)にお話を伺いました。講師の生徒たちは、八戸工業大学のカーボンニュートラル^(※)入門講座を受講し知識を深め、単位認定を受けています。

(※)二酸化炭素の排出量と、森林などが吸収する量を差し引き、排出量を実質ゼロにすること



❖ カーボンニュートラル講座受講のきっかけ

学校の授業でSDGsについて学ぶ中で、カーボンニュートラルというキーワードが繰り返し登場することに気づき、もっと深く理解したいと思ったのがきっかけです。

また、将来の地球環境がどうなってしまうのかという漠然とした不安も感じていて、自分にできることを見つけたいという思いから、この講座に参加しようと強く決意しました。

❖ カーボンニュートラルを学んでみて

カーボンニュートラルは単なる気候変動問題への対策ではなく、経済や社会のあり方そのものを大きく変革する取り組みであるということが印象的でした。

再生可能エネルギーへの移行や省エネ技術の普及が進むことで、新しい産業や雇用が次々に生まれると知り、環境問題を暗いイメージではなく、未来へのポジティブな変化として前向きに捉えられるようになりました。



❖ 環境学習会に講師として参加したきっかけ

地球温暖化は、これからの未来を生きる若い世代こそ真剣に向き合うべき重要な課題だと感じています。今の小・中学生にカーボンニュートラルについて正しく知ってもらうことが、将来の社会全体の意識や行動の変容につながると考えました。自分たちが学んだことを分かりやすく丁寧に伝えることで、社会全体の意識向上に少しでも貢献できればという思いで参加しました。

❖ 環境学習会の様子

電気をこまめに消すといった、日常生活の中で実践できる具体例を紹介するなど、自分ごととして受け取ってもらえるよう、伝え方を工夫しました。小学生たちはとにかく元気いっぱい、こちらから投げかけた質問やクイズに積極的に反応してくれました。

子どもたちの純粋な好奇心と元気の良さに、こちらまで自然と笑顔になれるような楽しく充実した、とても思い出深い時間になりました。



❖ 将来目指すカーボンニュートラル人材像

環境を守ることはもちろん大切ですが、それと同時に、人々の日々の生活がより豊かで便利になるようなカーボンニュートラルの実現に貢献できる人材になりたいと思っています。

技術の進歩と環境保全をうまく両立させながら、住みやすく魅力ある社会づくりに関われるよう、知識と経験を積み重ねていきたいです。

❖ 市民の皆さんへ

家庭でできる省エネ活動として、電気やガスの無駄な使用を減らす取り組みを実践していただきたいです。例えば、使っていない部屋の電気をこまめに消す、エアコンの設定温度を少し見直すなどといった、簡単な節電も効果的です。

一人一人の日常の小さな行動の積み重ねが地球環境を守ることに繋がりますので、ぜひ今日から意識して生活してみてください。



「省エネ最適化診断」を活用して始める脱炭素経営

二酸化炭素の排出量を抑えながら事業を展開する「脱炭素経営」に取り組む、三浦建設工業㈱の代表取締役社長・三浦さんにお話を伺いました。

同社は消費エネルギーや二酸化炭素の排出量を大幅に削減し、8年2月には「エネルギー管理優良事業者」として経済産業省東北経済産業局に表彰されました。

❖ 脱炭素経営に取り組んだきっかけ

最大のきっかけは、エネルギーコストの上昇です。当社の経営にも大きく影響し、今後も電気料金をはじめとしたエネルギーコストのさらなる上昇に強い危機感を抱くようになりました。

そこで、単なるコスト削減の延長ではなく、中長期的に安定した経営基盤を構築するための手段として、脱炭素経営に着手しました。

❖ 「省エネ最適化診断」が脱炭素経営の重要な起点に

中小企業である当社では、エネルギー分野の専門人材を自社で確保することが容易ではなく、何から取り組むべきなのか判断するのが難しい状況でした。そのような中で活用したのが「省エネ最適化診断」です。

自社のエネルギー使用量や二酸化炭素排出量を可視化できただけでなく、実践的なアドバイスをいただいたことで、優先して取り組むべき施策が明確になりました。

❖ 取り組みの効果とこれからの目標

エネルギー使用量・二酸化炭素排出量が「見える化」されたことで、具体的な改善行動が社内に定着しました。結果としてエネルギー消費原単位^(※)は大幅に改善し、取り組み前と比較して約56.6%削減しました。

また、社員の意識にも変化が見られるようになりました。環境負荷低減に関する提案や、エネルギーコスト削減に向けた具体的なアイデアが社内でも出るようになり、積極的に脱炭素化に取り組んでいます。

当社では長期的な目標として、2050年までにカーボンニュートラルの達成を掲げています。着実な取り組みを積み重ね、環境負荷の低減と企業価値の向上を両立させたいと考えています。

(※)一定量の生産物を作るのに必要となるエネルギーの量

❖ 脱炭素経営を検討している事業者の皆さんへ

「コストがかかる」「我慢が必要」というイメージがある脱炭素・省エネですが、実際に取り組んでみて、その本質は我慢ではなく「無駄を省き、エネルギーを賢く使うこと」であると感じました。

エネルギーの使い方を改善していくことは、環境への負荷低減だけではなく、結果としてコストの削減にもつながります。最初の一步は大きな投資である必要はなく、できることから着実に始めることが重要です。

取り組みを進める中で見えてくる効果や手応えが、次の一手につながっていきます。ぜひ前向きにチャレンジしてほしいと思います。



三浦建設工業 代表取締役社長 三浦 巨さん

中小企業の皆さん 省エネセミナーに参加してみませんか

脱炭素経営への転換を考えている市内の中小企業を後押しするため、省エネセミナーを開催します。

日時 6月24日(水)14:00~16:00

場所 総合保健センター1階 大ホール

内容 省エネ診断の有効性の説明、設備投資への金銭的支援の紹介 など

講師 信金中央金庫、(一財)環境共創イニシアチブSII、省エネお助け隊<(特非)循環型社会創造ネットワーク> など



詳しくはこちら